

【背景・目的】

高齢化が急速に進んでいる日本において、その問題は過疎地だけでなく、コミュニティの関係が希薄と言われる都市においても深刻な問題である。また、高齢化のみならず、貧困や健康問題などの様々な問題に日本社会は今後一層のスピードで直面するだろうと予測されている。東京都の山谷地区では、地域の医療・福祉機関・住民が連携した包括的ケアや地域全体で高齢者を支えあうという先進的な取り組みを実施している。本研究では、従来の農村コミュニティとは異なる都市化で孤立しがちな状況下での高齢化が進む地域においてのどのように取り組みを明らかにし、その先事例が示唆する関わりを考察することを目的とする。

【方法】

期間：2015 年10月5 日（月）～2015 年10 月23日（金）

場所：東京都台東区清川及び日本堤山谷地区

対象（受け入れ団体）と活動内容：

- ・ NPO法人山友会（無料診療所・相談）
- ・ 訪問看護ステーションコスモス（訪問看護活動・出張健康相談・デイケアサービス）
- ・ その他

炊き出し、夜回り、ドヤに住む高齢者の見守り、ホスピスなど

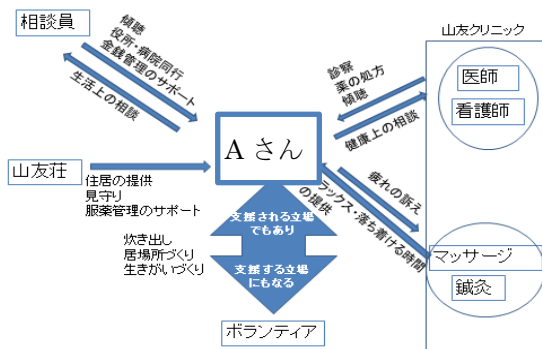
手法：

参与観察：山友会、訪問看護ステーションコスモスの活動に参加し、この地域で様々な機関がどのように連携をしながら、住民を支えているかを中心に実施

インタビュー：山友会・無料診療所の医師や看護師、訪問看護ステーション・コスモスの看護師対象に、1対1での詳細なインタビューを実施

【結果・考察】

山谷地域での参与観察を行い、この地域で活動されている各機関について、地域でどのような役割を担っているのか、またそれらの機関がどのように連携を図っているのかについて実際の現場から学ぶことができた。山谷地域の単身高齢者を支える団体のひとつとして、無料診療事業、生活相談事業、配食事業、宿泊支援事業など幅広い支援を行う NPO 法人山友会がある。山友会が運営するクリニックの前には、ベンチや椅子、灰皿が置かれ、毎日のように人々が集う光景が見受けられる。その場に集う多くの人が生活保護を受給しながら簡易宿泊所で暮らす人々であり、山友会が行っている炊き出しなどに参加することもある。ボランティアを行う人々は、かつての自分の境遇や経験を生かし、意見を出し合いながら、炊き出しの計画を行っていた。このように山友会には、健康や生活を支えるだけでなく、この地域で住む方々の居場所としての役割があることを観察を通して理解することができた。



また、参与観察の主なものひとつのフィールドである訪問看護ステーションコスモスは、簡易宿泊所、またはケア付き宿泊施設などで生活し、看護を必要とする人々のもとへ訪問し看護を提供している。他の地域の訪問看護師同様、生活者のもとへと出向きケアを行うが、山谷地域の特色として、単身高齢者が多いため、より家族的な関わりが求められることが多い。さらに、城北労働福祉センターからの委託でセンターの娯楽室や敬老室、加えて簡易宿泊所を訪ね、健康相談にのる活動も行っていることは、この

図 1：山友会を利用する住民を中心とした関係

地域ならではの活動でもある。

山友会が医療だけでなく、生活上の問題なども含め、そこを訪れた人たちを支援する。そして、コスモスがケアが必要な人のもとへ出向き看護を実践する。さらには、健康や生活上の問題はあるが、どのように相談してよいか分からない人、その問題に気が付いていない人、なんらかの事情で山友会やその他の機関に行くことが困難な人のもとへこちらから出向き、話を聞き、必要があれば様々な機関につなぐ役割も担う。それぞれの機関が自らの専門性を生かし、各職種と連携を取りながらこの地域の人々を支えることで、専門家が体調から生活までをケアをするネットワークの構築が可能となっている。主なフィールドワークの場所であった山友会、訪問看護ステーションコスモスは、山谷で暮らす生活者を支えるという共通の目標のもと、むかえいれる場所としての山友会、出向く活動を行うコスモスというように、異なる特性を生かして支援活動を行っていることも3週間の参与観察を通して知ることができた。

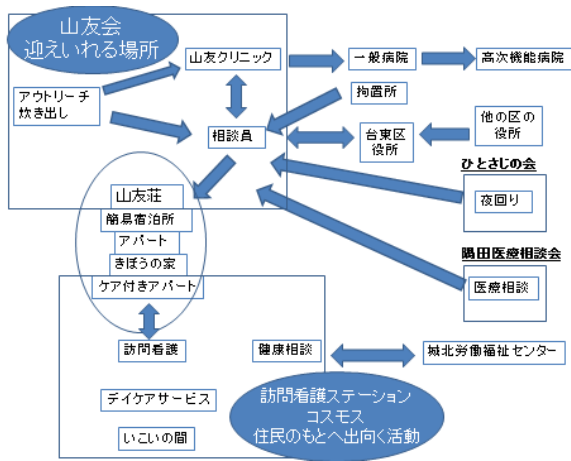


図2：山谷地域での多団体による連携

自分の居場所を見つけたボランティアたちの存在である。山友会に通い支援される立場でありながらも、山友会の活動をボランティアとして支える支援する立場でもある。生活保護受給率が少しずつ上昇している中において、生活や健康上の問題だけでなく、ひとりで生活していることによる「孤独」の問題へのアプローチもさらに必要とされるようになってきたと考える。そのような状況下、支援される人が支援する人でもあることは、彼らの居場所づくり、役割づくりとなるだけでなく、彼らの活躍こそ、住民主体で行っている活動の実践例であり、さらには同じような立場の人を支援することにより支援される側のニーズをくみ取ることも可能にしていると考えられる。

日本は、高齢化に加え、今後さらに単身高齢者の増加が予測される。そうした意味で、すでに単身高齢者が多く、高齢化に加え、貧困などの様々な問題にも直面している山谷地域は、日本の未来の図ともいえるだろう。山谷で展開されている、住民が参加しているボランティア活動、多職種が連携し地域で生活する人々を支える地域連携のネットワーク、簡易宿泊所に住みながら生活保護を受給できるシステムなどの様々な地域資源を生かしたプライマリヘルスケアの実践例は、NPO 法人の活動が活発であることや、もともと簡易宿泊所が多いことなど地域性を生かした活動であり、地域のニーズに沿ったかたちでの活動である。しかし、今後この地域と同じような問題に直面することが予測される日本全体において、ただ単に支援をするだけでなく、活動自体に住民を巻き込み参加してもらうこと、そうした中でできる居場所づくりやニーズの把握、事業や個人同士のつながりを重視することは、今後超高齢化社会へ突入し、様々な社会問題へと直面することが予測される他の地域においても重要なケアの在り方であると考えられる。

### 【謝辞】

本研究を行うにあたり、フィールドワークを受け入れて下さった、NPO 法人山友会、訪問看護ステーションコスモス、活動に参加させていただいたひとさじの会、さらに、お忙しい中インタビューに答えていただきました、山友クリニックで活動されている医師、看護師の皆様、山友会での様々な活動を行うにあたり温かく迎えて下さった多くのボランティアの方々に感謝致します。

湘南藤沢学会から研究助成基金をいただいたことにより、山谷地域に泊まり込み夜に実施される活動にも参加しながら参与観察が実現することができましたので、併せて御礼申し上げます。

単身で生活している人々に対して実施されている家族的な関わりや居場所づくりなどの活動は、山谷という地域の特性にあった活動であり、地域のニーズに沿った活動の実践である。多くの人々が生活保護を受けながら、置かれた状況の中で、様々な問題と向き合いながらも自分らしく過ごすことを支援する山谷地域の他職種連携は、保健医療機関だけでなく、教育、農業、水、商業など多領域とともに健康へアプローチするというプライマリヘルスケアの4原則のひとつの実践モデルであると考えられる。また、山谷地域の活動の中で特に注目したいのは、先にも述べたが、山友会の活動に参加しているかつて炊き出しに並ぶ側であったり、ずっと孤独に過ごしてきたが、山友会を知り